



大阪市立大学「人工光合成研究拠点」 2017 International Conference on Artificial Photosynthesis (ICARP2017) を共催

2017年3月2日から5日にかけて立命館大学朱雀キャンパスにて開催された人工光合成に関する国際会議 2017 International Conference on Artificial Photosynthesis (ICARP2017) を大阪市立大学「人工光合成研究拠点」が共催しました。



国際会議期間中、大阪市立大学「人工光合成研究拠点」のブースを設け、拠点パンフレット等が展示されました。



国際会議では、文部科学省科学研究費補助金新学術領域「異分野融合による人工光合成による太陽光エネルギーの物質変換」の最終成果報告の場でもあり、本研究拠点の学内・学外運営委員が多数参加、講演しました。

大阪市立大学「人工光合成研究拠点」の代表である天尾豊人工光合成研究センター所長も「Photoreduction properties of diphenyl-viologen derivative with water-soluble porphyrin and its application for C-C bond formation from carbon dioxide」と題し招待講演いたしました。



また「人工光合成研究拠点」の事業者でもある神谷信夫前人工光合成研究センター所長も「Flexibility and pH-dependence of oxygen-evolving complex in photosystem II found at extremely low X-ray doses」と題し、光合成の酸素発生サイト解明の最新の研究成果を招待講演で披露しました。



またICARP2017に先駆けて2017年2月28日から3月2日にかけて立命館大学朱雀キャンパスにて、日本で初めて開催されたイギリス王立化学会のFaraday Discussion: Artificial Photosynthesisにおいても神谷教授・天尾教授が登壇し、最新の研究成果を披露しました。まさに人工光合成ウィークに大阪市立大学「人工光合成研究拠点」の成果を報告できました。

新年度も定期的に講演会を開催いたしますので人工光合成拠点のホームページやFacebookで最新情報をチェックしてください。

人工光合成研究拠点 ニュースレター

第2巻・第1号平成29年4月20日発行

発行責任者：天尾 豊(大阪市立大学人工光合成研究センター所長)

編集責任者：吉田朋子(同副所長)

<http://recap.osaka-cu.ac.jp/ap-coe/index.html>